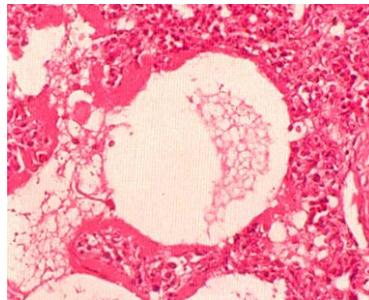


学長のコラム

新型コロナウイルスの感染拡大を憂う

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。3月15日現在で、国内の感染者が809人、死亡者は24人である（クルーズ船を除く）。世界では感染者が14万人を超え、死亡者も5千人を上回った。とりわけイタリアでは死亡者が1,400人を超え、スペインでも180人に達しており、WHOからは「今や欧州がパンデミックの中心地となった」という見解が示された。本学では当初3月13日の卒業式・修了式を縮小開催する方向で検討していたが、世界的に感染が拡大したことや、国内外に卒業旅行に出かけた学生が集まることを考慮して、急遽9日に卒業式・修了式の中止を決定し、学長式辞、在学生送辞、卒業生答辞はホームページに掲載することとした。翌10日には卒業生代表10名ほどに中止の経緯を説明した。当然ながら全員が中止を残念がり、とりわけ女子学生は一生に一度の袴姿を楽しみにしていたことが痛いほど分かっていたので、私自身も断腸の思いであった。しかし、それを救ってくれたのは彼ら彼女らの言葉で「保健医療系大学の卒業生として、この状況を十分に理解しなくてはならない」、「自分自身卒業式は単なる儀式と思っていたが、この状況になって卒業式が自分自身にとって如何に重要な行事であることが認識できた。それを認識させてくれたことに感謝したいし、これまで開催の道を探ってくれた先生方にお礼を言いたい。」と感謝を述べてくれる学生もおり、本学卒業生の社会的意識が高いことを嬉しく感じた。ご存じの様に11日にはWHOが「パンデミック」を宣言し、日本では「緊急事態宣言」を出せる改正特別措置法が13日に成立した。その結果、熊本の殆どの大学で卒業式・修了式が中止となった。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関して中国から数編の剖検報告がなされている。それによると肺病変の主体は急性呼吸窮迫症候群（ARDS）であり、多少専門的となるが、これに対応する病理組織所見は「肺硝子膜症（はいしょうまくしょう）」と呼ばれる変化である。この硝子膜は滲出液中の蛋白や壊死細胞からなっており、肺胞の内腔面を覆うことで、ガス交換が著しく障害されてしまう（写真左）。このような変化が広汎に広がると著しい呼吸不全となる。回復者による「症状が出始めてから数日で強い呼吸困難に陥った」という証言があるが、その原因は肺硝子膜症が広汎に出現したものと推定される。同じコロナウイルス感染症であるSARSやMERSでも同様の変化が起これ、重症インフルエンザでもARDSが主な死因であるが、COVID-19ではこの様な感染症に比べてARDSが急速に進行する可能性があるのかも知れない。COVID-19は治療法が確立されておらずワクチン開発もこれからであり、感染予防が最優先である。とりわけ、私を含め高齢者や基礎疾患を持つ方々は十分に感染防止に努めなければならない。



肺硝子膜症の顕微鏡写真



早咲きの桜はもうすぐ満開

久しぶり、元気かい（会）

2月8日（土）、メルパルク熊本におきまして、卒業1年目同期会「久しぶり、元気かい（会）」を開催いたしました。その主たる目的は、懇談会を通して近況報告を行い、教職員と卒業生が相互に親睦を深めることです。今回で13回目を迎え、恒例行事となっております。

当日は201名（卒業生152名、教職員49名）の方々にご参加いただきました。この一年間で皆さまが成長した姿を見ることができて大変嬉しく思います。今後益々のご活躍を期待しています。（文責：就職支援課）



看護学科 キャリア教育セミナー

2月7日（金）、10日（月）、本学アリーナにおきまして、看護学科の学生を対象としたキャリア教育セミナーを開催いたしました。本セミナーは、キャリア教育の一環として、各施設の情報収集を行い、「将来はこうなりたい」、「このように働きたい」などの職業観を再確認し、将来の看護師・保健師・助産師への青写真を明確にすることが主な目的です。今回は九州内外84施設の皆さまにご参加いただきました。3年生はこれから就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得がいく就職活動ができることを期待しています。（文責：就職支援課）



令和元年度“ちいき楽暮”活動報告会

2月21日(金)、50周年記念館において令和元年度地域包括連携医療教育研究センター“ちいき楽暮(ラボ)”の活動報告会を行いました。

第一部は、ちいき楽暮の今年度活動報告とともに、その活動の一つである「生きる達人」3名に認定証を授与しました。第二部では臨床社会学者春日キスヨ先生による「百まで生きる覚悟～身じまいの作法～」のテーマで基調講演がありました。「ピンピンコロリという理想に反して、ピンピン期とコロリの間には、長いヨロヨロ期があってドタリ期がある。その長いヨロヨロ・ドタリ期をどう過ごすか」という問いかけがあり、参加者は真剣に受け止め聴いていました。地域で生き生きと暮らす達人の生き方に学び、超高齢社会の中で自分自身のこととして考える機会となりました。(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



災害対策訓練

2月17日(月)、熊本市北消防署との共催で集団災害対策訓練を本学アリーナで実施しました。消防署から30名弱、本学からは防災サポーターとして活動している学生および教職員ら20名程度が参加しました。今回は爆発事件が起こったという想定で学生たちは要救助者や救助補助役を経験しました。消防職員には事前に内容を知らせないブラインド訓練だったこともあり、実際の現場さながらの雰囲気緊張気味の学生もいました。講評の後、消防署職員による講義のほか、VR消火器の体験もあり充実した訓練となりました。

*写真、赤いジャケットが本学学生の防災サポーターです。写真の一部は理事長の提供によるものです。(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



3月・4月・5月の主な行事予定 ※3/19時点での予定です。

3/31(火)	辞令交付式	4/9(木)	(学部)授業開始
4/1(水)	辞令交付式 新任者オリエンテーション 令和元(2019)年度事業報告提出締切(企画課)	4/18(土)	学部4年次保護者会(延期)
		5/15(金)	開学記念日(授業日)
4/6(月)	(学部)入学式、前期ガイダンス(～4/8)	5/16(土)	看護学科3年次保護者会
4/7(火)	(助産別科)入学式、新入生オリエンテーション	5/27(水)	銀杏学園理事会・評議員会
4/8(水)	(助産別科)授業開始		

私の秘話ヒストリー

今回は共通教育センターの竹永 和典 教授に投稿していただきました。

ダブリンに住んでいたときは、いろいろ大変であった。休日は気分転換をかねて近場を散歩するか、バスに乗り100円ほどで行ける郊外の公園までよく出かけた。

その日も考え事をしながら公園を散歩していると、突然(あの地域特有の)雨が降りはじめ、傘を持ってなかったので、木陰で雨をしのいでいた。当時は、金銭的余裕も無く、数少ない衣服を何度も洗濯し、アイロンもかけずに着て、休日は、無精髭のまま、髪はボサボサといった風で、ヨレヨレの格好であった。すると、向こうから、(中身が少々)のビール瓶を片手に、くわえタバコ、所々穴の開いた衣服、髭ぼうぼうの物乞い(らしき男)が近づいてきて、(アイルランド訛の英語で)「お前も大変だな」と言って、湿気たタバコを一本恵んでくれた。「俺もついここまできたか」、思わず苦笑いしてしまった。ダブリン時代のよい思い出である。